

2014 年度 早稲田大学 文化構想学部 国語解答例

(一)

[出典]

A 岸田劉生『演劇美論』所収「旧劇美の味」

B 郡司正勝『かぶきの美学』所収「かぶきの美」

[解答]

問一 a ハ b ロ 問二 ハ 問三 逆手を用ゐる道  
問四 つまり、苦 問五 ホ 問六 ニ 問七 階級

(二)

[出典]

野内良三『レトリックと認識』

[解答]

問八 (二) 問九 イ 問十 I ハ II ロ III ニ  
問十一 ハ 問十二 ホ 問十三 ロ  
問十四 1 ニ 2 イ 3 ロ

(三)

[出典]

甲 和辻哲郎『日本精神史研究』所収「『枕草紙』について」

乙 清少納言『枕草子』(第八十二段)

丙 曾先之編『十八史略』(卷一春秋戦国)

[解答]

問十五 ロ 問十六 I ホ II イ 問十七 2 ロ 5 ニ  
問十八 イ 問十九 ロ  
問二十 III ニ IV ホ V イ VI ロ VII ハ  
問二十一 ハ 問二十二 隗 問二十三 ホ 問二十四 ニ

[講評]

(一) は、内容的に関連のある複数の文章を並列する形式は、昨年度と変わらないが、昨年度出題されていた「文語文」がなくなり（Aは仮名遣いは歴史的な遣いを含んでいるが、内容的には普通の現代文として読めるはず）、また出題される文章も昨年度の三題から二題に減少した。しかし、「歌舞伎」という一般の受験生にはなじみの薄い題材であり、特にAの文章は対比関係が取りにくく、やや解きにくい。(二) は、論旨が把握しやすい比較的易しめの評論文。問十一、問十三の長めの選択肢に引っ掛からないように注意したい。

(三) は、昨年同様現古漢融合問題。古文・漢文ともに昨年度とは異なり頻出出典。特に漢文は故事成語としても著名なものなので、比較的解きやすかったのではないだろうか。

2014年度 早稲田大学 文化構想学部 英語解答例

I

- (A) 1 - b    2 - a    3 - a    4 - c    5 - c    6 - a    7 - a  
(B) 8 - d    9 - a    10 - d    11 - a    12 - b    13 - c    14 - b

- II (A) 15 - b    16 - d    (B) 17 - c    18 - b    19 - c  
(C) 20 - b    21 - d    22 - d    23 - b    24 - b

- III 25 - h    26 - a    27 - e    28 - g    29 - f    30 - b    31 - c

- IV 32 - l    33 - e    34 - k    35 - a    36 - m    37 - h    38 - c

V (例文)

It has long been said that that human-beings have five senses as physical function, but we cannot eliminate the possibility of other senses, such as sixth sense, unconscious step on the stairs, touch typing, and senses of nausea or fatigue, which are not easy to categorize as any of the well-known five senses.

※コメント

出題数、出題形式とも変動は見られない。難易度や語彙レベルも昨年とほぼ同じ。ただし、問題Ⅲの文章中の空所に文を挿入する問題では、文脈による判断がややしづらかったかもしれない。指示語・接続詞で確定できるものは1箇所、あとは文章の流れや、キーワードを頼りに分析することになり、総合的な能力が問われた。